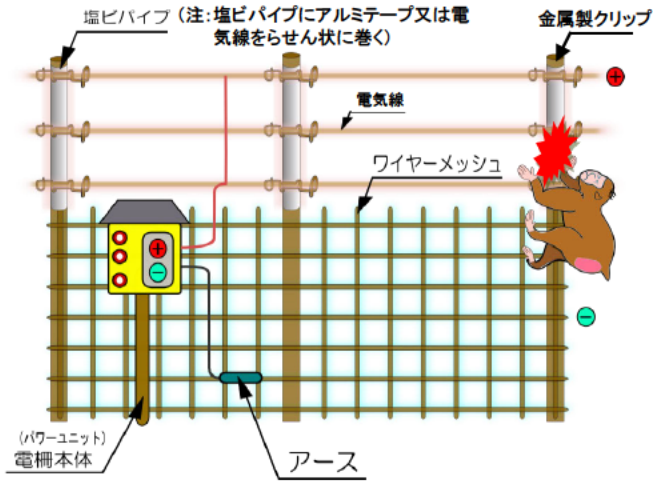




サルにも有効な多獣種電気柵の紹介



通電式支柱を用いた電気柵(おじろ用心棒)



ニホンザルによる農作物被害対策の課題

- ・農作物被害は深刻化
- ・人口や地形により追い払いが困難な農地も多い
- ・サルにも効果がある防護柵はあまり普及してない



集落のエサ資源量を低減するには、侵入防止効果が高い柵を普及させる必要がある

そこで!!

おじろ用心棒 (兵庫県香美町で考案)

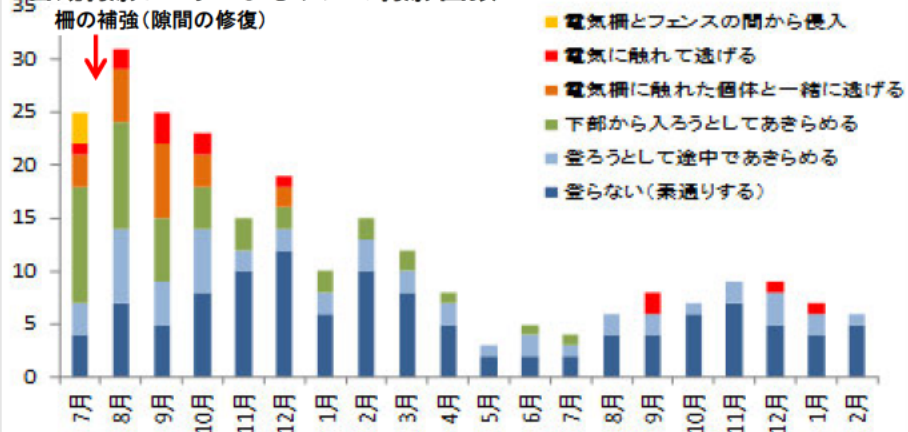
- 特徴
- ・通電式支柱を用いた電気柵
 - ・サルが登れない
 - ・シカ、イノシシの被害も防げる多獣種柵

三重県内での効果検証結果

- ・三重県内の120頭程度の群れが出没する集落で検証
- ・サル被害が多発する菜園にH23.7~H24.10(継続中)にかけ、おじろ用心棒を設置
- ・柵の周辺に自動撮影カメラを設置し、15ヶ月連続撮影
- ・撮影されたサルの侵入行動や回数を分析し、効果を検証する

結果

自動撮影カメラによるサルの撮影回数



- 菜園への接近回数は、設置直後の8月をピークに徐々に減少しはじめ、1年後の7~9月では前年の1/5程度となった。
- 通電式支柱を用いた電気柵(おじろ用心棒)はサルの侵入防止効果が高いことが確認できた。
- 侵入行動をとるサルの比率も減少した。



■ 電気柵に触れて逃げる ■ 電気柵に触れた個体と一緒に逃げる ■ 下部から入ろうとしてあきらめる ■ 登ろうとしてあきらめる ■ 素通りする

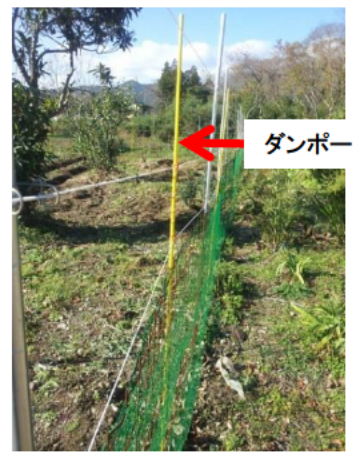
設置上の注意



メッシュと電気線に隙間がある



隙間から潜り込むサル



ダンポールなど

ダンポールなどの絶縁性の棒を中央に設置し、隙間を補強します

ワイヤーメッシュがたわんでいたり、メッシュと1段目電気線の隙間が大きいと、希に、隙間から潜り込まれます。その場合、メッシュの中央に段ポールなどの絶縁資材で補強を入れれば、より完全です。

注意点

- ワイヤーメッシュと1段目の電気線の間隔は10cm
- ワイヤーメッシュをたわませて、隙間を作らない。
- 電圧は4000～5000V以上
- 飛び込める木などを周囲に残さない。



メッシュと電気線の間隔は10cm程度

種々の工夫

- 追い払いが難しい果樹園でも効果が期待できます。
- アルミテープの代わりに、電気線をらせん状に巻くだけでも、簡易に同等の効果が期待できます。
- 既存のフェンスに追加することで、多獣種柵に発展できます。



みかん園でも設置



アルミテープの代わりに電気線をらせん状に巻き簡素化



既存のフェンスに加えることでサルも防げる柵に(伊賀市子延地区)



必要資材

資材	規格	備考	必要個数
ワイヤーメッシュ	横2m×高1m。編目10cm。太さ4mm程度	編目が大きいと子ザルやうり坊が侵入します	2mに1枚
鉄筋	13mm、高さ1.5m程度	支柱に使用します	1本/2m
アンカー			適宜
塩ビパイプ(VP16)	高さ1m弱。内径16mm、外径22m		
パワーユニット	距離に合わせて選定。		1個
電気線	3段。シカも防ぎたいときは、4段に(最上部は通電しなくても可)		
アルミテープ	幅5cm×10m巻き	電気線を巻き付ける場合は不要。	50mで1個程度
金属製クリップ	特注品	どこを持ってても感電するように、通常の碍子のかわりに金属製のクリップを使用します	支柱1本に3個

